

- ◆ 認知症は症状の進行度にあった対処法や支援が大切です。下の表では、進行度別に本人の症状や介護をする方の対応、小諸市の支援体制等を紹介しています。
- ◆ 原因疾患や身体状況等によって経過が異なりますが、今後の介護の目安としてください。

軽度	中度	重度
日常生活はほぼ自立 ⇒ 誰かの見守りが必要 ⇒ 日常生活に手助けが必要 ⇒ 常に手助けが必要		
<ul style="list-style-type: none"> • 同じ物を何度も買ってしまう。 • 財布、通帳のしまい忘れや置き忘れが増え、探し物ばかりしている。 • 新しい事が覚えられない。 • 料理、片付け、計算などのミスが多くなる。 • 薬を飲んだ事を忘れる。 • 曜日や時間が分からなくなる。 • 小便の排泄を失敗してしまう。 • つじつまを合わせようと作り話をして取り繕う。 • 些細な事で怒りっぽくなり、イライラしている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 慣れた道なのに迷ってしまう。 • 物盗られ妄想が出る。 • 交通ルールが分からなくなる。 • 着替えや入浴を嫌がる。 • 大便の排泄を失敗してしまう。 • 言葉や話の内容が理解できない。 • なぜか人ともめる事が多い。 • いつも落ち着かない。 • 暴力を振るう。 • 好きな事にも興味が持てず、意欲が出ない。 • 感覚が鈍くなる。 • 介護者の顔が覚えられない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分で出来る事が少なくなる。 • 古い記憶も消えていく。 • 家族の顔や人間関係がわからなくなる。(失認) • トイレの使い方が分からなくなる。 • 衣類の着脱ができなくなる。(失行) • 言葉が分からず話さなくなる。(失語) • 自分のいる場所や、何をしているかが分からなくなる。
<ul style="list-style-type: none"> • 趣味や得意な事、出来る事を生活に取り入れる。 • 出来る範囲で役割を続ける。 • カレンダーで日時をチェックし、大事な事や出来事を書き留める。 	<ul style="list-style-type: none"> • 定期受診を継続する。 • 日課や家庭の中での役割を続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> • 脱水に注意する。 • 肺炎予防のため、口の中を清潔に保つ。
<ul style="list-style-type: none"> • 「反論」ではなく「傾聴」する。 • 一緒に行動する時間を持つ。 • 本人のペースに合わせる。 • 一人で頑張り過ぎず、地域包括支援センター等の専門機関に相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 本人の世界観に合わせる。 • 反論や否定、説得はしないようにする。 • 本人に感謝の気持ちを伝える。 • 出来る範囲で身近な人に認知症の事を伝え、理解者や協力者を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> • あたたかなコミュニケーションを心掛ける。 • 目を見てゆっくり話す。 • 心地よさをたくさん感じてもらう。
市役所・地域包括支援センター・ケアマネジャー・介護保険事業所		
集中支援チーム		
認知症コールセンター		
ささえ愛サポーター・見守り事業所・認知症サポーター		
見守り反射ステッカー（黄色・赤色）・行方不明者メール配信		
健康達人区らぶ・介護予防地域交流事業（昼食会等）・あんしんコール		
（高齢者教室）・高齢者クラブ・認知症カフェ・地域の集いの場		
対象外のサービス（自費サービス）		
小規模多機能型居宅介護支援		
総合事業（通所・訪問）	介護保険（通所・訪問 等）	